

帯広市環境モデル都市行動計画（2019年度～2023年度）の概要

1 計画策定の背景

○地球温暖化の影響

地球温暖化の進行は疑う余地がなく、既に我が国においても平均気温の上昇、台風等による被害、農作物や生態系への影響等が観測されており、地球温暖化の防止は人類共通の課題となっている。

○国内外の動向

2015年、温暖化対策を定めたパリ協定が採択され、すべての国が参加する公平で実行的な国際的枠組みの合意となった。それを受けて、我が国においても、地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するための計画である「地球温暖化対策計画」が2016年に閣議決定された。

○環境モデル都市おびひろ

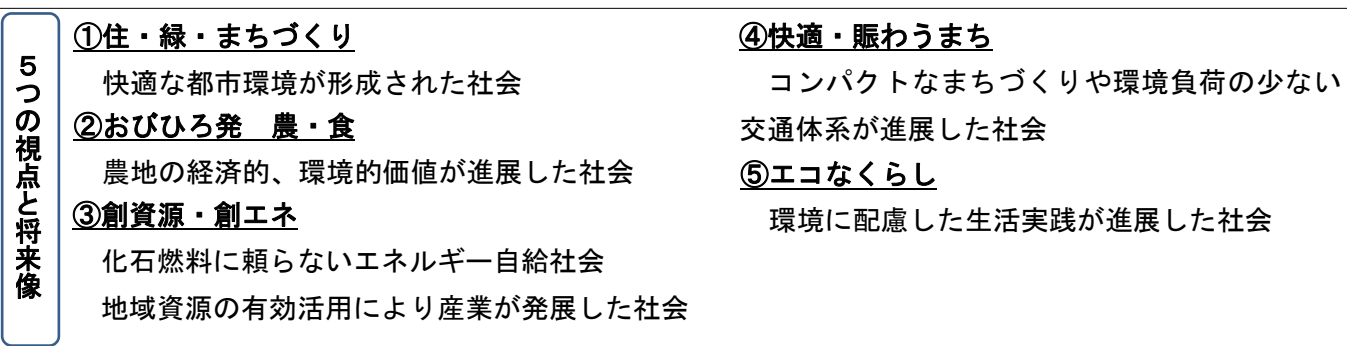
本市は2008年に、低炭素社会の実現に向け、先駆的な取り組みにチャレンジする「環境モデル都市」に選定され、温室効果ガス削減目標や具体的施策を明らかにした環境モデル都市行動計画を策定し、取り組みを進めてきた。

○地球温暖化への適応

地球温暖化に対する「緩和」の取り組みに加え、すでに生じている影響や、中長期的に生じる可能性がある影響に対する「適応」の視点をもった施策の推進が必要となっている。

2 全体構想

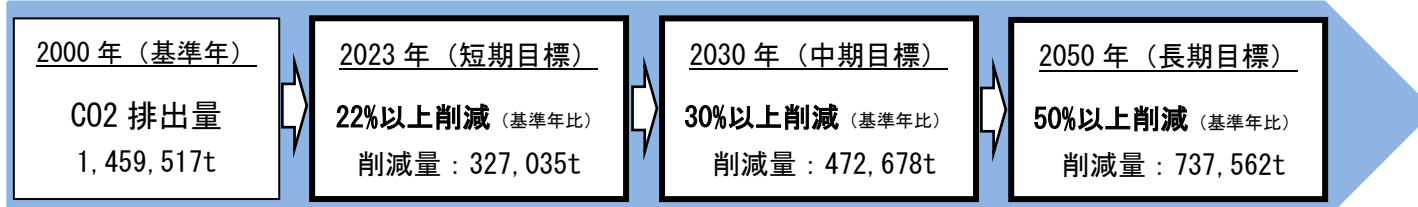
本計画は5つの視点と将来像をもとに、今後5年以内に実行する予定の取り組みをまとめ、環境モデル都市として、喫緊の課題である地球温暖化の防止と活力あるまちづくりが両立した持続可能な低炭素社会の実現を目指すものである。



持続可能な低炭素社会

- ・温暖化の防止
- ・活力あるまちづくり

○削減目標



3 主な取り組み内容

①住・緑・まちづくり

- ・環境リサイクル施設の集積（中島地区エコタウン）【拡充】
バイオガスプラントの運転、緑地整備、企業等の立地誘導
- ・省エネ・高性能建築物の建築、改築
省エネ性能や耐久性に優れた住宅の建築促進
- ・公共施設の省エネ化
太陽光発電、木質ペレットストーブ、LED照明の率先導入

C02削減量

現況（2017年）	2023年	2030年	2050年
11,286t	16,022t	21,945t	37,289t

②おびひろ発 農・食

- ・スマート農業の取り組み【新規】
農作業機械への再エネや先端技術の導入による省エネ化
- ・農産物残さ等の有効活用
エコフィードの活用や規格外品の有効活用
- ・家畜排せつ物等の利活用の推進
家畜排せつ物の堆肥施用や長いもネットの再利用

C02削減量

現況（2017年）	2023年	2030年	2050年
150,669t	227,795t	315,195t	381,212t

③創資源・創エネ

- ・水素の製造及び利活用【新規】
家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業への参画等
- ・一般家庭への省エネ機器の導入促進【拡充】
高効率給湯暖房機、ガスコージェネレーションシステムの導入促進
- ・太陽光発電の普及【拡充】
蓄電池と併せた普及啓発による導入促進
- ・エコカーへの転換
公用車への積極的な導入やイベント等を活用した普及啓発

C02削減量

現況（2017年）	2023年	2030年	2050年
30,042t	81,333t	133,635t	317,159t

④快適・賑わうまち

- ・サイクルツーリズムの推進【拡充】
サイクルツーリズム推進のため、地域受入態勢強化と観光情報の発信
- ・環境にやさしい公共交通の利用促進
高齢者や農村部居住者を対象としたバスなどの公共交通の利用促進

C02削減量

現況（2017年）	2023年	2030年	2050年
430t	297t	297t	297t

⑤エコな暮らし

- ・COOL CHOICEの推進【拡充】
イベントや広報活動、環境教育を通じた普及啓発
地元メディアやバス会社等、企業と連携した普及啓発

C02削減量

現況（2017年）	2023年	2030年	2050年
3,224t	1,588t	1,605t	1,605t